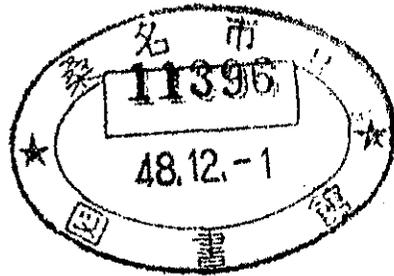


明名錄

覽要勢町

初年刊行

△  
▽



同	三四	三一	二十	十九	十八	十二	七八	頁
同	四	六	五	十一	十三	十九	十	行目
計	失	五	桑	桑	桑	桑	桑	桑
十	火	月	名	名	名	名	名	正
三	二	二十	町	町	町	町	町	町
計	失	六	益	益	益	益	益	益
一	火	月	生	生	生	生	生	生
二	一	日	村	村	村	村	村	村
	一	現在						

正誤表

## 凡 例

- 一、本要覽ハ桑名町ニ於ケル風土ノ概要ト統計上ノ事實ヲ併セ收録ス
- 一、本要覽ノ材料ハ地誌歴史等ノ成書並ニ官公署學校會社等ヨリノ諸報告ニ依リタルモノトス
- 一、本要覽統計ハ昭和七年中ノ事實ヲ掲上スト雖モ必要ナル表ニアリテハ既往ノ變遷消長ヲ示サム爲メ數年間ノ計數ヲ掲記シ以テ比較ニ便ス
- 一、本要覽中何年トアルハ曆年何年度トアルハ會計年度ナリ而シテ現在ヲ見ルヘキモノニ就テハ特ニ調査期日ヲ記入セリ

目次

第一章 總說

(一) 位置及廣袤	一
(二) 地勢	一
(三) 氣候	二
(四) 沿革	二
(五) 神社	四
(六) 佛閣	二
(七) 名所舊跡	四
(八) 本町所管區別	二
(九) 土地	三
1 土地大別	三
2 民所有租地	三
3 田畑所有者別	四
4 本町民(未開)土地所有者人員數	四
(十) 戶口	五
1 本籍並現住人口及戶數	五

第二章 財政

2 本籍人口動態	二六
3 現住職業別戶口	二七
4 死亡者年齡別	二八
5 死亡者職業別	二八
6 死亡者及死產數月別	二八
7 現住人年齡別	二九
8 出生數月別	二九
9 私生子及庶子出生數月別	三〇
10 婚姻離婚數月別	三〇
(十一) 議員及町吏員	三一
1 議員	三一
2 町吏員及委員	三一
(十二) 役場文書取扱件數	三一
(十三) 薪俸	三二
(十四) 官公署學校其他	三三
1 官公署學校其他	三三
2 薪俸	三三
3 財政	三五

(一)	町費歲入調	三五
(二)	町費歲出調	三六
(三)	昭和八年度歲入歲出豫算	三七
(四)	税金負担額調	四一
(五)	町稅徵收高並最高最低及平均額	四一
(六)	國稅種別	四二
(七)	縣稅種別	四三
第三章	町有財產	四三
(一)	土地	四四
(二)	建物	四五
(三)	基本財産	四六
第四章	交通	四七
(一)	道路	四七
(二)	橋梁	四八
(三)	船舶	五〇
(四)	鐵道	五〇
(五)	郵便電話	五一
第五章	農産業	五二
(一)	農産業	五二

(二)	商工	五九
1	主要製産物	五九
2	工場	六一
3	會社	六五
4	金庫	七〇
5	産業組合	七一
6	營業者表	七一
7	市場	七二
1	農業經營狀態	五二
2	米	五三
3	麥	五三
4	園藝農産物果實	五四
5	蔬菜花卉及食用農産物	五四
6	綠肥用作物	五六
7	養蠶	五七
8	家畜	五七
9	家禽	五七
10	牛乳	五八
11	農産額表	五九

(三)	水産	七五
1	水産物	七五
2	學事	七七
1	小學校	七七
2	小學校校蹟	七八
3	小學校教員數	七八
4	幼稚園	七九
5	各種學校	七九
6	青年訓練所	八〇
7	教育費調	八〇
第七章	兵事	八一
1	徵集人員	八一
2	徵兵檢査人員	八一
3	陸海軍人現員表	八一
第八章	社寺及教會	八二
1	神社	八二
2	寺院	八三

第九章	衛生	八四
1	傳染病患者	八四
2	死亡者病類別	八五
3	汚物掃除	八五
4	醫療機關及製藥賣藥	八六
5	埋火葬	八六
6	種痘	八六
7	トラホーム檢診	八七
8	水道	八七
第十章	社會	八八
1	保育	八八
2	恤兒救	八八
3	無料治療券交付數	八九
4	方面委員數	九〇
5	職業紹介取扱狀況	九〇
6	簡易診療所	九四
共	他	九五

1	篤志	九五
2	各種別	九五
3	新聞誌	九六
4	劇場	九六
	里程表	九八

# 第一章 總說

## 一、位置及廣袤

縣ニ於ケル位置 三重縣ノ北部桑名郡ノ東南部  
 境界 北 西桑名町 西 在良村 西桑名町 西南 桑部村 南城  
 南村ニ境シ 東北一帯揖斐川ニ臨ム  
 經緯度 東經百三十六度四十二分北緯三十五度二分  
 廣袤 東西 三、六〇〇メートル  
 南北 三、〇〇〇メートル  
 周圍 一四、五〇〇メートル  
 面積 五、三九七平方杆

## 二、地勢

西北境ニ當リ西桑名町ニ擴カレル丘陵ノ一端露ハル、ノミニテ東南ニ漸下シ揖斐川ニ盡ク  
 地勢概ネ平坦ナリ揖斐川ハ澗々トシテ南流シ町ノ東岸ヲ洗フ舟筏常ニ輻輳シ洄漕ノ便繁シ

戸數六千人二萬八千ニ垂ントス

### 三、氣 象

西北ハ丘陵巒トシテ連亘シ東南伊勢灣ノ碧水ヲ擁スルヲ以テ外洋潮流ノ影響ヲ受ケ一般ニ温暖ナリ沍寒尙華氏四十度ヲ上下シ烈暑ト雖モ九十度ヲ踰ユルコト旬日ニ過ギス  
風 雨、冬季ハ西北風多ク夏季ハ東南風多シ暴風雨ノ襲來スルコト稀ナリ雨量ハ一年ヲ通シテ適當ニシテ一年大約百二十日内外氣候ニ大變化ヲ及ボスコト少シ

霜 雪、霜ハ十月下旬ニ始リ翌年三月中旬ニ終ル雪ハ三四回乃至十數回アリト雖モ積ムコト五六寸ニ過ギス

### 四、沿 革

和名抄ニ桑名郡桑名郷訓久波奈トアリ桑名首ノ故里ニシテ天津彦根ノ命ノ男天久比乃命ノ后裔ナリ後郡家ヲ設ケ郡司ヲ置キ此地ヲ管ス  
天武天皇元年六月東國巡幸ノ途次桑名郡家ニ宿シ給フコト日本記ニ見ユ聖武天皇十一年十月壬辛幸伊勢國至桑名郡石占頓宮トアリ蓋シ石占ハ當時一地方ナルベシ  
古桑名ノ地掛斐長良町屋川等ノ流域ニ屬シ洲渚三分セリ故ニ三ツノ洲ト云ヘリ今ノ三崎通以北ヲ自凝州崎ト唱ヒ三崎通以南吉津屋町以北ヲ加良州崎ト呼ビ新町以南ヲ泡州崎ト稱ス

史籍ノ徵スベキモノ以上ニシテ上古ノ事蹟千歲ノ今日知ルベカラズト雖モ大字江場ノ北端ヨリ新屋敷ニ亘ル一帶ハ蠣塚ノ舊址ニシテ地層貝殻ヨリ成リ往々ニシテ古代土器ノ破片ヲ堀リ出スヲ見又天武持統天皇行宮ノ遺蹟モ大字江場字神戸並ニ神戸岡ノ地方ナリトイヘバ當時ハソノ地勢現今ト異リテ町屋川ハ今ノ西磯ヨリ矢田磯ノ方面ニ流レ且海岸沮洳ノ地ニ近カリシトハイヘ鍋屋町ヨリ蠣塚近傍以南ハ古クヨリノ陸地ニシテ人民ノ居住セシハ太古ヨリノ事ナルベシ保元平治ノ頃源三位頼政ノ領トナリ文治中伊勢平氏ノ黨桑名三郎右衛門行政幕命ヲ受ケ此ノ地ヲ管ス吉野朝廷ノ頃ニ至リ矢田次郎左衛門今ノ矢田字城山ニ矢田城ヲ築キテ賊軍ノ將高師秋ニ屬センガ延元三年九月伊勢國司北畠顯能ニ攻落サレ以來當所ハ概テ北畠氏ニ屬シ南朝ニ從ヒタリキ

足利氏ノ末元龜天正群雄割據時代ヨリ桑名三ヶ村又ハ三ヶ城ノ名アリ北畠四十八士ナルモノ近郊所々ニ恭待シタリ天正年間矢田城主矢田俊元江場城主佐藤秀道等織田信長ノ爲ニ亡サレ元龜二年其將瀧川一益信長ノ命ニヨリ此ノ地ニ三ヶ城ヲ築キ長島一向宗徒ノ防備ヲナサシム東ニ伊藤武左衛門北ニ矢部右馬允南ニ樋口内藏介相鼎立シテ其領ヲ統ブ慶長五年關ヶ原役后徳川家康天下ヲ統一スルニ當リ其寵臣本多忠勝ヲシテ之ヲ鎮セシム全八年大ニ城壘ヲ修ム子忠政播州姫路ニ移ル松平隱岐守定勝之レニ代ル時ニ元和三年ナリ全七年吉ノ丸廓ヲ構ヘ又搦手約九百間ヲ水中ニ築ク川口港ヨリ南ニ連ル搦斐川岸ノ石壘即チ是ナリ寛永

十二年松平隱岐守伊豫松山ニ移ルヤ定綱公來リテ其ノ后ヲ襲ヒ封邑十一萬石ヲ食ミ桑名城廓ヲ完成ス定良公ヲ經テ定重公ニ至リ越後高田ニ移ル時ハ寶永七年ナリ文政六年城中守定永公ニ至リ松平下総守ニ代リ奥羽白河ヨリ舊封ニ復シ子孫相繼承シテ明治維新ニ至レリ回顧スレバ我桑名ノ地タル東海道ノ要衝ニ當リ間遠七里ノ渡場ヲ扼スルヲ以テ封建時代ニ於ケル對外ノ勢力ハ甚ダ偉大ニシテ來往ノ旅客關西諸侯ノ參勤皆此地ニ由アルハナク尾參勢濃及遠近ノ百貨ハ茲ニ吞吐セラレ從テ五十三驛樞要ノ關門トシテ近國ニ霸タリシナリ然ルニ時勢ノ進運ニ制セラレ鐵路ノ開通三大川ノ改修等悉ク我ニ利ナク商機空シク逸轉シテ又昔日ノ靦ナキヲ患ヒタルモ大正十二年四月赤須賀村ヲ併合シ全十四年四月省線桑名驛ヨリ延長五百八十間縣道桑名停車場線ノ開通アリ之ニ電鐵ヲ布設シ昭和二年九月運轉ヲ開始シテヨリ陸運ノ利便頓ニ加ハリ昭和八年三月益生村ヲ併合シ往時ノ盛運ヲ挽回スル將ニ近キニ在ラムトス參宮國道ノ開通三大川架橋ノ實現ヲ見ルニ於テハ北門交通產業ニ一新紀元ヲ劃スル期シテ待ツベキナリ

## 五、神社

### 1、縣社 鎮國守國神社

市街ノ東北端舊城址御本丸ニ鎮坐ノ縣社ヲ鎮國守國神社トス藩祖松平定綱公ヲ奉祀ス桑名少將定勝公ノ第三子ナリ大阪陣ニ軒功アリ後累リニ封ヲ移シ祿ヲ重ネ寬永十二年伊勢國桑

名城ニ移リ十一萬石ヲ享ケラル公舊勳ノ元老ヲ以テ海道ノ要津ヲ守リ文武ヲ修講シ屹然トシテ國家ノ藩屏ニ任シ名望ノ歸向スル所海道一ノ名將ト稱セラル公心ヲ深ク民治ニ致シ先考定勝公ノ遺志ヲ繼ギ水道ヲ改修シテ設備ヲ完成シ飲料水ノ改良ヲ期セラレシガ如キ後世永ク其德ニ浴シ其澤ヲ蒙ル慶安四年十二月廿五日薨ズ御年六十桑名城西桑名町大字東方照源寺ニ葬ル寬政九年白川城主松平定信公城内ニ鎮國大明神ト崇祀シ後桑名本城ニ遷坐ス明治十三年十月五日縣社ニ列セラレ大正六年贈從三位ノ宣下アリ

守國神社ハ桑名藩九世ノ城主松平定信公ヲ奉祀ス田安中納言宗武郷ノ第七子ナリ天明三年白川城主松平定邦公ノ封ヲ襲ギ城中守ニ任セラル世ニ所謂白河樂翁公ナリ公襲封以來深ク心ヲ國政ニ潛メ給ヒ殊ニ天明ノ飢饉ニ當リテヤ勤儉以テ賑恤ヲ周クシ封内一人ノ餓死ナク民皆其德ニ服ス御年三十幕府ノ執政ニ任シ家齊將軍ヲ輔佐シ政ヲ施スコト公明正大舊弊ヲ改革シ賢ヲ擧ゲ奸ヲ退ケ文教ヲ興シ武備ヲ振ヒ奢侈ヲ禁シ儉素ヲ勸メ恩威並ヒ行ハレ綱紀大ニ張リ天下其德ニ服ス實ニ幕政中興ノ元勳タリ公内裏御造營ノ總督トナルヤ龍顏ヲ拜シ天盃ヲ賜ヒ竣工ノ後ハ恩賜アリ又海防ノ總督トナルヤ房總等邊海ノ防備ニ勤メラル後致仕シテ封ヲ世子ニ讓リ退キテ閑地ニ就キ行ヲ勤メ德ヲ修メ幕府ノ恩遇萬民ノ僭仰替ルコトナク終始ヲ保全シ給フ文政十二年五月十三日薨ズ御年七十二江戸深川靈岸寺ニ葬ル天保五年桑名朝陽山鎮國神公ノ相殿ニ崇祀シ守大國明神ト申ス明治十三年十月五日縣社ニ列セラレ

守國神社ト稱ス全四十一年九月九日贈正三位ノ宣下アリ

六

2、縣社 桑名中臣神社

本社ハ俗ニ春日神社ト稱ス大字宮通本町ノ地境ニ鎮坐ノ縣社ナリ桑名神社ハ延喜式ニ列シ桑名首ノ祖神天津彥根命天久比乃命ヲ祀ル中臣神社ハ天日別命ヲ本社トシ春日四社ノ神ヲ合祀ス兩社並坐前ニ百疊敷ノ拜殿アリ樓門ニ桑名宗社ノ扁額ヲ掲ク往時ハ神宮寺佛眼院ヲ置キ田祿五十石ヲ給セラレタリ慶長年中桑名城主本多忠勝公ノ請願ニヨリ神君ヨリ百石ノ御寄附アリタリ社前ノ紫銅ノ大鳥居ハ寛文七年未八月越中守定重公ノ御代建立セラレ慶長金二百五十兩ヲ要セシトイフ承應二年巳六月五日大風ニ吹倒サレ再建シタリト傳フ銘ニ曰ハク

華表巍々 惟直惟闔 神威可畏 保定萬年

味岡幽巖之ヲ銘シ常信寺七世伯實ノ書ナリ結構宏壯ナルヲ以テ夙ニ但諾ニ入り銅ノ鳥居ヲ以テ直チニ桑名ヲ聯想スルニ至レリ又石探神事ハ氏子ノ熱狂ヲ以テ國內ニ著ハル石探神事ハ傳説ニヨレバ昔景行天皇東國御巡幸ノ途次歲ノ七月十七日桑名ニ鳳駕ヲ駐メ御親祭アラセ給ヒシコトアリ爾後比與利祭ト稱シ毎年其日ニ流鏑馬ノ御神事行ハレタリ今ノ宮通ハ當時ノ馬場ナリト言ヒ傳フ斯クテ毎年神域ニ奉獻スル石ヲ町屋川原ヨリ採リ來ランガ爲老若男女氣遣節面白ク車ヲ曳キ出シタルガ此神事ノ起源トナリ後ニハ鉦ヲ鳴ラシ太鼓ヲ叩キ行

列勇マシク行ハル、ニ至リシガ藩主松平定綱公ノ御深慮ニヨリ其行事ヲ利用シテ輻重ノ役日ト將卒ノ元氣ヲ鼓舞セシメラレタルガ原因トナリテ祭事以外或意味ニ於テ難有キモノナリトノ觀念ヲ桑名町人士ノ腦裡ニ深ク抱カシメタリ今ヨリ約百年前樂翁公ノ御深慮ニ基キ元來比與利祭ト石取行事トハ全然別個ノモノナルニ拘ハラズ桑名人士ノ腦裡ニ石取行事ヲ祭典ノ如クニ思ヒ込ミ居ルコトノ深キヲ察シ給ヒ終ニ此行事ヲ純然タル祭典神事トシテ比與利祭ト併セ行ハシムルコトニナサシメラル爾來年々祭典ノ盛況ヲ呈シ山車ノ華麗ヲ競ヒ鉦鼓齊調ヲ爭ヒ滿街湧クガ如ク士民熱狂ス祭日ハ例年七月六七日兩日ナリシモ近年之ヲ十一十二日ニ改メタリ近國ヨリ來集ノ觀客市街ヲ填ム

3、縣社 立坂神社

本社ハ俗ニ八幡宮ト稱ス桑名郡益生村大字矢田ト當町大字矢田磯トノ地界ニ鎮坐スル縣社ナリ大日靈貴尊神功皇后應神天皇玉依姬ノ諸神ヲ祭神トス後明治四十一年二月廿日益生村大字上野ニ鎮坐アリシ村社四宮神社富士淺間社及山神社ヲ合祀ス抑大日靈貴尊ハ本社創立ノ祭神トシテ延喜式神明帳ニ伊勢國桑名郡立坂神社トアリ有栖川一品熾仁親王御筆立坂神社ノ奉額ヲ存ス明治二年明治天皇御東幸ニ際シ奉幣使ヲ差遣サレ金幣ノ供進アリ古來鷹司家ノ歸依最モ深ク定紋ノ幕提灯等ノ寄進アリ領主世々崇敬篤シ神功皇后應仁天皇玉依姬ノ諸神ハ矢田八幡宮ト稱セラル天正年中豊臣秀吉尾張五明ニ對陣スルヤ織田信雄ノ陣所矢田

七

八  
磧ニ赴キ和ヲ講セシキ八幡宮ヲ假リニ此大日社地ニ祭リタルヲ以テ爾來八幡宮ハ本社殿ノ如ク大日社神ハ末社ノ如クナレリ降テ慶長年間徳川家康大阪陣ノ際本多忠勝矢田磧ニ勢揃アリ此時八幡宮ニ祈禱ヲナシ出陣シテ大ニ戰功ヲ收メ歸陣後其子忠政更ニ石清水八幡宮ヲ勸請シテ之ヲ桑名八幡宮ト稱シ其後地名ニ據テ矢田八幡宮ト改稱ス本社合殿神ナリ明治十七年八月縣社ニ昇格全三十九年十二月三重縣告示第三百八十號ヲ以テ神饌幣帛供進ノ神社ニ指定セラル大祭ハ十月十八九日行ハル兩日ハ模造物ノ奉納及三個ノ大燈籠ノ献納ハ夙ニ縣下ニ著レ參詣者絡繹トシテ織ルガ如シ

4、郷社 神 館 神 社

益生村大字江場字神戶

祭神 天照大神

豐受大神

倭姬命

大山祇神

大産靈神

説曰

倭姬命神器ヲ奉シテヨキ御座所ヲ求メテ大和ヨリ諸國ヲ經テ蠟塚附近(古ハ三洲ノ岬ト呼

ブ)ニ暫シ足ヲトメサセラレ其處ニ行宮ヲ建給フタ、再ビ處々ヲ經テ五十鈴川ノ上流ニ安置シ給フ、人々ツノ行宮ノ趾ニ一祠ヲ建テ、神館神社ト稱シタ、時正ニ垂仁天皇十七年九月デアツタ

一、由緒 右神社ノ創立ハ垂仁天皇十七年九月十三日ナリ倭姬世記ニ云 垂仁天皇十四年己巳秋九月一日遷幸于伊勢國桑名郡野代宮四年奉齊次鈴鹿奈具波忍山ニ神宮造奉六個月奉齊此時遷幸ノ御道筋御休泊ノ處々ニ神館ヲ被爲建候故宮ニ天照大御神倭姬命ヲ祭祀仕後ニ豐受比賣命ヲ勸請仕候神館ヲ建置カレン所ヲ神戶ト云、故ニ桑名神戶、河曲神戶、鈴鹿神戶、飯南神戶等也該社ノ近傍ノ地字ヲ神戶神供神田古幣田大夫殿給禰宜西等アリ皇大神宮儀式帳ニ云フ、纏向珠城宮宇活目天皇御世伊勢桑名野代宮坐其宮爾座伊勢國造遠祖建夷方乎汝國名何何問賜曰久神風伊勢國止白支神御田並神戶進支倭姬世記云伊勢國桑名野代宮四年奉齊于時國造大若子命參相御供仕奉國內風俗令白支又國造建日方命參相支汝國名何問賜答曰神風伊勢國止白進舍人弟伊爾方命

又地口神田並神戶

神鳳抄云桑名郡神戶廿七町御神酒三罐副米九斗祭斗祭料並造酒米一石懸力稻二十來伊勢國風土記桑名郡云神戶岡此地多出桃花少而其實大如雞卵土民食之無病又商也全書ニハ榎葉神社圭田二十五來

右ノ書類ニヨリテ案スルニ此ノ江場村ハ神戶岡ト舊來稱スルハ之レ正シク御遷幸ノ舊跡且御厨神社ナルコト必セリ、該神ニ獅子頭二頭アリコレ當國鈴鹿郡山本或ハ箕田ナト、同作ノ由云傳タルコトナリ又 高倉天皇ノ勅納春日ノ作亦ハ安阿彌ノ作トモ口碑ニ傳ヒ三重郡椿尾ト云フ所ニ大樹ノ椿アリテ之ヲ以テ十三頭ノ獅子ヲ彫刻セシメ當國ノ名社ヘ勅綱アリシトナリ所謂、稻生二頭、山本一頭、郡山一頭、中戸二頭、箕田一頭、小許曾一頭、智積一頭、坂部一頭、右神館ニ二頭アリ、委細ハ稻生獅子傳記ニ詳ナリ

明治十四年九月廿八日郷社格加列

明治四十一年一月二十二日大字江場字中繼無格社山神社全年六月二十四日大字淺川無格社大産靈社字宮ノ島全大産靈社、本社境内社神館神社明治四十二年四月一日大字鍋屋町無格社一目連社ヲ合祀スルノ許可ヲ受ケ明治四十一年六月二十日及明治四十二年四月五日合祀ヲ執行セリ例祭ハ毎年十月十三日執行ス

5、郷社 天武天皇社

鍋屋町ニ鎮坐ノ郷社ニシテ天武天皇及皇后高市皇子ヲ合祀ス壬申ノ亂ニ天皇皇后ト共ニ桑名ニ幸シ給ヒシ事ハ日本紀ニ明ナリ其頓宮ノ址ハ大字新屋敷ニ在リ天皇御足洗ノ水ナリト稱スル菊ノ井古井今尙該地ニ存セリト雖モ多年荒廢ニ委シ山緒アル遺趾モ空シク埋没ニ歸セントスルヲ憾キ近年氏子有志相諮リ保勝會ヲ組織シ資ヲ賽シテ營繕ヲ加ヘテヨリ其結構

大ニ見ルベキモノアルニ至レリ蓋シ後世此地ヨリ鍋屋町ニ移シタルモノナラン平祭典ハ十月十五十六日行ハル

6、郷社 赤須賀神明社

永祿六年九月十一日市場茂左衛門秀高三河國祈願所ナル神明社ノ御靈代ヲ勸請シテ桑名元赤須賀ノ地ニ奉安シ氏神トシテ尊信ス赤須賀獵師町伊藤俊太郎舊記ニ依レバ祖先市場茂左衛門秀高若千貫ニテ三河國市場村ヲ領セシニ永祿四年故アリテ三河ヲ去リ氏ヲ伊東ト改メ其家臣九人ヲ率キテ桑名元赤須賀ニ來住シ家臣ヲシテ漁業ヲ營マシム其後源左衛門ニ至リ桑名城主松平定綱公城廓ヲ擴ムルニ當リ新田ヲ開キ漁人ヲ茲ニ移ラシム即チ舊赤須賀ノ地ナリ慶安三年九月廿七日藩費ヲ以テ此地ニ神明社ヲ遷坐セシメラル、ニ際シ漁人等船數十艘ヲ艦シ海上渡御ヲ了リタリトアリ此日桑名郡多度村ヨリ一目連神社ヲ勸請シテ境内社トス

本社祭神ハ天照大神宇迦之御魂命外七神ヲ合祀シ境内一目連神社ハ天目一箇命ヲ祭神トス後揖斐川改修后明治四十三年六月七日現在ノ社地ニ奉遷ス本社例祭ハ毎年十月十一日境内社例祭ハ十月廿七日トス

7、村社 北桑名神社

上古江與神明社ト稱ス古草味ノ頭ハ揖斐川西方ニ灣流シテ入江ヲナシ尾野入江ト呼ベリ此

入江ニ沿フテ北ニ走リタル一帯ノ丘陵アリ之ヲ尾野山ト呼ブ今ノ東方村ヨリ北一帯ノ地ナルヘシ當時鎮坐ノ地今詳ナラズト雖モ今ノ愛宕山ノ邊ナルベシトイフ垂仁天皇二十六年丁巳秋八月勸請三崎神明社即チ是ナリ中古今ノ地ニ鎮坐ス天照太神ヲ奉齋スルハ皇太神宮御遷幸ノキ本郡野代ニ奉齋セリ想フニ野代ノ地往時江ノ奥ナリシナルベシ慶長十九年八月本多美濃守忠勝公社殿ヲ改造シ寶永年間關東地方ヨリ郡參アリト當神社舊記ニ在リ祭神ハ建速須佐之男命大日靈貴尊外八神ヲ並祀ス明治四十一年六月及十月佐乃宮神社三崎寶殿若宮社其他北桑名ニ於ケル諸神ヲ合祀シ北桑名總社北桑名神社ト改稱ス例祭ハ八月十五十六日トス

8、村社 八重垣神社

益生村大字大福ニアリ

祭神 素 盞 鳴 尊

此ノ社ハ清和天皇貞觀年中( )奉勅ニヨツテ、卜部清麻呂、尾張國津島牛頭天王ヲ帝都祇園ニ勸請ノタメ當所通御ノ節供御ヲ献ゼシ地ナリトイフ

六、佛 閣

1、淨 土 寺

桑名清水町ニ在リ淨土宗西山派ニシテ袖野山西岸院ト稱ス京都光明禪林兩寺ノ末寺タリ往時或ハ三崎ノ神宮寺ト稱シ寶治中僧道觀中興ス寺内ニ本多忠勝公及其臣中根忠實梶忠勝ノ墓アリ

2、本 統 寺

桑名町寺町ニ在リ淨土真宗東本願寺ノ別院ナリ元龜天皇ノ頃本願寺僧徒織田信長ト兵ヲ構フノキ諸國門末寄々評議所ヲ構ヘ本山ニ兵糧ヲ貢ギシガ尾瀨勢三國ノ門末此地ニ一道場ヲ構ヘ評議所トス當時寺號ヲ定メズ今寺ト稱ス慶長六年教如上人ノ女剃髮シテ本寺ニ來住シ桑名御坊ト云ヒ慶安年中ニ本統寺ト號ス當地巨剎ノ一ナリ書院ノハサマニ蜘蛛ノ巢ニ馬ノ刻アリ古歌ノ心ナルヘシ

くものゑにあれたるこまはつなぐとも

二道かくる人はたのまじ

3、法 盛 寺

萱町ニ在リ淨土真宗西本願寺ノ別院ナリ古ハ天臺宗ノ末寺タリ三州矢矧村ニ在リ阿彌院寺ト號ス親鸞上人茲ニ布教シテ逗留シ其法弟忠圓房ヲ茲ニ住セシム之ヨリ當宗ニ改ム其後應仁ノ亂ヲ避ケテ桑名町ニ移リ今ノ寺號ニ改ム本尊阿彌陀佛ハ僧湛慶ノ作ナリト傳フ長三尺余御齒貝足ス世ニ之ヲ齒吹如來ト稱ス

尊やなありがたやとそいはれけり

南無阿彌陀佛のみなのほかには 蓮如上人

4、圓通寺

法城山圓通寺ト稱ス、江場村大字江場屋敷ニアリ、淨土眞宗西派ナリ  
本堂ハ明治四十一年一月十六日改築ノ許可ヲ得、同年工ヲ竣ヘタリ、本尊阿彌陀如來、左  
桑名所圖會『左後泰雲院位碑アリ、九條殿下弟松殿トイフ』トアリ桑名名勝志ニ左壇『宗  
祖眞影』トアリ、右壇『信懸院殿影』トアリ久波奈名所圖會ニハ『信入院殿影』トアリ

七、名所舊跡

1、川口港

町ノ北端揖斐川ニ沿フ東海道ノ海路七里ニシテ尾張ノ熱田港ニ達ス俗ニ七里ノ渡トイフ古  
所謂間遠ノ渡ハ即チ之ナリ又佐屋廻トテ海路三里津嶋船ノ發着セシ所ナリ此處伊勢ノ入口  
ナレバトテ港上ニ大鳥居ヲ建テ大神宮一ノ鳥居ト稱シ毎年六月鳥居祭事アリ又上流尾濃地  
方ニ舟楫ノ便アリ故ニ該地方ノ貨物概ネ茲ニ集散シテ市街ノ般盛ヲ極メタルモ明治三十年  
木曾川改修ノ工ヲ竣ハルト同時鐵路全通ノ爲空シク中間驛ノ觀ヲ呈シ復往時ノ盛況ヲ見ス

ト雖<sup>レ</sup>尙舊態ヲ存シ貨物集散ノ要泊地タルヲ失ハズ

有明の月に間遠の渡して

とまり急かぬ夜半の舟人 (名所圖繪)

いとどしく過ぎ行くかたの戀しきに

うらやましくもかへる浪かな (伊勢物語)

舟泊桑名城下

梁星巖

遠水無浪日已沈 萬橋轟々立如林

青樓翡翠多年夢 白露兼霞此夕心

斷續弄風江更笛 丁東搗月女郎砧

聲々未肯無情思 來話蓬窓半夜吟

あれ見やれくはなくわたる追風にいせとをはりをたつた一時

2、照源寺

桑名町ノ西西桑名町大字東方ニ在リ東海山泥浜院ト號ス淨土宗鎮西流義ニシテ智恩院ノ末  
寺タリ公家菩提所ノ一ナリ寛永元年松平隠岐守定勝公御逝去定行公臺許ヲ得一寺ヲ創建シ  
崇源寺ト稱ス遠州掛川天然寺傳舎三甫ヲ以テ開基トス寺領三百石ヲ附セラル後桑名藩祖大  
鏡公美濃大垣ヨリ當城ニ御移リアリタルキ智恩院ヨリ深譽長意ヲ請フテ崇源寺住職トナシ

寺名ヲ照源寺ト改メ二百石ヲ附セラル爾來桑名藩主ノ菩提所タリ寺城高キ所西方ニ櫻ノ老樹アリ金龍櫻ト呼ブ藩祖定綱公攝津金龍寺ヨリ分株移植セラレタルモノナリトイフ鉅幹様牙根際ヨリ八岐シテ空ヲ蓋ヒ枝條繁茂シ地方稀有ノ名櫻ナリシモ惜ムヘシ齡將ニ竭キントスルヲ以テ茲ニ幼樹ヲ植ウ二十四番ノ春風梢頭ヲ訪ヅル、ノキ欄漫妍ヲ呈シ往時ヲ語ルニ似タリ花時曳杖ノ墨客多シ

花さかりくまある色のゆふばへに

木の下蔭をもちてあかさん 定綱公

なかめつゝ花にこゝろは入相の

かねてぞおもふあかね名残を 定綱公

寸蔭可惜勢陽春

山寺樓閣招雅賢

今日遊遊爲賞咏

金龍名品遠移新

### 3、海 藏 寺

今一色寺町ニ在リ曹洞宗ニ屬ス茲ニ薩摩義士平田鞆負以下廿二士ノ遺墳アリ近時此地ヲ相シ桑名義士會ニヨリ忠魂堂ノ建築ナリ多年世慮ニ遺サレタル忠魂義魄ヲ吊慰シ之ヲ祭祀スル時運ヲ招來セル決シテ偶然ニアラズ其天下後世ヲ扶掖シ獻身奉公ノ大義ヲ鼓吹スルニ力強キ規範ヲ示シタルモノトイフヘシ寶曆三年十二月徳川九代將軍ノ治世ニ當リ幕府木曾攝

斐長良三川ノ治水工事ヲ薩藩ニ命ズ當時平田鞆負主命ヲ奉シテ奉行トナリ部下ヲ卒ヒテ具サニ辛酸ヲ嘗メ粉骨碎身工漸ク成ル時ニ寶曆五年三月ナリ尾勢濃三州累年水難ノ困厄ヲ救フヲ得タリト雖モ巨額ノ工費ハ算外ノ支出トナレルヲ以テ責任ノ重キニ願ミ一死以テ君公ニ辨疏セント決シ旅窓ノ下遙カニ思ヒテ故山ニ馳セ鞆負以下無然屠腹シテ終ハル蕪齋タル松林餘濃カナル所碑一基往事ヲ語ルヤ切ナリ俗ニ千本松ト稱セラレ兒童走卒モ尙ヨク之ヲ知ル東西古今ヲ問ハス職ニ殉スルノ節亦偉ナリト謂フヘシ

### 4、濱ノ地 藏

龍宮山地藏院ハ俗ニ濱ノ地藏ト呼ブ赤須賀ノ東堤揖斐川畔ニ在リ本尊石地藏佛ハ往時貝洲ノ濱ニテ漁夫ノ網ニカ、リタルヲ松ノ五叉ノ岐レタル處ニ安置セシニ夜々龍燈ノ上リタレバトテ其松ヲ龍燈ノ松ト稱シ堂宇ヲ建テ之ヲ安置シタリ當山ハ眞言宗ニシテ大梵刹ナリ開基詳ナラス天正十三年酉十一月廿一日大地震ノタメ堂閣一時ニ崩壞サレ小堂ノミ小松原ノ中ニ殘レリ寛永八年未秋大風ノ時小堂モ亦破損ス寛永十三年子任持照山法印本堂ヲ再建ス修驗宗當山派ニ屬ス其後承應三年午攝津守定良公ノ時堂ヲ堤ノ傍ニ移ス寛文九年酉秋大風アリ堂宇再破損ス全十年戌四月城主ノ御取立ニヨリ舊觀ニ復ス明治三十年三大川改修ニヨリテ今ノ地ニ堂宇ヲ奠メタリ當時地藏堂ノ前ニ常燈明アリ尾張熱田其他地方ヨリノ夜中廻船ノ目標トス寶曆年中ヨリ始メタリト傳フ堂側ニ芭蕉翁ノ白魚塚アリ自筆ノ俳句ヲ刻ス

曙やしら魚白き事一寸

蓋シ白魚ハ此地方ノ特産ニシテ風味佳良他ノ追隨ヲ許サ、ルナリ此地眺望佳絶ナルヲ以テ春秋ノ交訪客多シ殊ニ汐干狩ニハ最モ良シ夕陽淺渚ヲ照ラシ風ヲ孕ミテ去來スル漁船水天髣髴ノ間ニ隱見スル様眞ニ一幅ノバノラマニ似タリ

5、鍋屋堤ノ櫻

大字住吉町地先西桑名町大字福島ニ至ル掛斐川ニ添フ堤上約一杆ニ百リ櫻樹ノ壓道アリ之ヲ鍋屋堤ノ櫻ト呼ブ先代諸戸清六翁ノ植ウル處ニシテ其數當時一萬本ヲ數ヘタリトイフ桑名驛ヨリ約一杆六右願水ヲ隔テ、長嶋ニ對シ左阿田畑相連リテ多度江勢ノ諸峰ヲ望ミ風景甚ダ佳ナリ春風駘蕩ノ交爛漫タル艶姿ヲ呈シ觀客多シ夏季灼熱ノ苦ヲ其綠陰ニ避ケテ行客ノ來往ヲ慰メ四時風致ニ富ム

6、愛宕山

益生村大字矢田字城山ニアリ矢田北邊ノ城址ニシテ戰國時代北勢四十八家ノ驍將矢田市郎右衛門之ニ居セントイフ永祿三年今川義元ヲ襲ヒ討ツタ織田信長ハ餘勢美濃ヲ屠リ、更ニ伊勢北畠氏ニ向ハントスル途中桑名ヲ蹂躪シ、永祿十一年矢田城ヲ攻メ、市川右衛門最後マデ奮戦シ兵少ナキヲ以

テ及バズ陥リタリ

松平定綱公ノ代ニ至リ愛宕神社ヲ奉祀セラレシガ、明治四十四年立坂神社ニ合祀セラレテ廢セララル山上ニ吞景樓アリ、東南伊勢内海ヲ望ミ、勢、志、尾、參、遊、等ノ諸州ノ山岳皆眼中ニアリ風景絶佳ナリ衆庶此處ニ歡樂スル者常ニ絶エズ、森樞堂樓ノ記ヲ作レリ

7、江場城址

佐藤奎之助ノ城址ト稱ス、天正五年ノ矢田城ノ陥ツタ頃、コレモ亡ビタ、永祿元龜ノ頃没落セリ。大字江場圓通寺住職ハ末裔ナリトイフ城址ハ寺ノ南田ノ中ニアリテ俗ニ城山ト稱セリ

8、走井山

益生村大字矢田字城山ニアリ

矢田半左衛門之ニ居シ矢田城トイフ

(天正二年七月信長ハ一向一揆ヲ亡ボシテカラ長島、桑名城ハ瀧川一益ノ居城デアッタ) 天正五年、織田信長部將羽柴秀吉、瀧川一益等ヲシテ之ヲ攻メシメタ、城主矢田俊元戰非ナルヲ知り自刃シテ相果テ、城山ニハ敵ノ壘ガ築カレタ(矢田氏ノ子孫ハ桑名町大字矢田町、善西寺ノ住職ナリトイフ)

元和年中山麓ニアリシ觀音堂ヲ山上ニ移シ走井上觀學寺ト稱セシガ、明治維新後廢寺トナ  
リシヲ大字矢田有志者數名其ノ廢滅ヲ惜シシ説教所トシテ之ヲ保存セリ  
山上ハ愛宕山ト共ニ風景絶佳ナレバ、春時ハ殊ニ遊覽ノ客群ヲナス

9、有王塚

益生村大字矢田字智(有王)俊寛ノ侍童有王丸ノ墳墓ナリトイフ、源平盛衰記ニ載スル所  
ノ有王丸鬼界ケ島ニ至リ俊寛ノ悲惨ナル最後ヲ見届ケ遺骨ヲ奉ジ高野山ニ埋葬シソレヨリ  
修業ノタメ諸國行脚ノ旅ニ出發セシガ偶々齒痛ノタメニ病ミテ此處ニ死ス  
里人集リテ死骸ノ上ニ筵蓆ヲ蓋ヒテ通夜ス

コノ遺風今尙存シ桑名地方ニテ死者アル時ハ其ノ家ノ戸口ニ筵蓆ヲ掛ケテ忌中ノ印トセリ  
塚ハ田畝中ニアリ、松樹數本アリテ小詞アリ齒痛ニ苦シム者、コノ詞ニ詣ツレバ齒痛止ム  
トテ今モ尙香花ノ絶ユルコトナシトイフ  
一説ニ曰ク、橘諸兄ノ孫有王ノ墓ナリト

大正十四年十二月

初メ桑名町ノ素封家竹内求太郎氏ノ建立デアツタガ次第ニ荒廢シテ行ク有様ヲ見テ、益  
生村ノ人々ガ集ツテ修築シ更ニ永遠ニ傳ヘル可ク  
京都東本願寺句佛上人ニ依頼シテ

塚に泣け 吾なき跡を 友千鳥

ノ風詠ヲ受ケ、句碑ヲ建立シタ

10、村正屋敷

走井山ノ下ニアリトイヘドモ今ハ其ノ地ヲ詳ニセズ  
刃工千子村正ノ居住セシ所ナリ  
村正ノ母走井山ノ千手觀音ニ祈リテ村正ヲ得タレバ千子ヲ氏トストイヘリ  
ソノ子孫今大字大福ニ居住シ、鍛冶業ヲ營メリ

11、大福田寺舊地

公私爪録ニ云フ

『承應年間、大門村大福田寺地低ナルヲ厭ヒ、深忍法師印住職ノ時、今ノ東方ニ引カル、  
ナリ』トアリ

12、森陳明ノ墓

大門村ハ今ノ大福ニシテ舊地ハソノ東方ニアリ  
桑名町傳馬町十念寺ニアリテ森彌左衛門陳明ハ舊桑名藩ノ重臣ニシテ戊辰ノ變トナルヤ桑  
名藩首謀者ノ一人トシテ薩長ニ強抗シ事治リテ一藩ノ責ヲ負ヒテ江戸深川ノ刑場ニ斬ラル  
后遺髮ヲ茲ニ埋メテ墓所トス

13、桑名城趾

桑名町三ノ丸吉ノ丸ノ地是レナリ本丸趾ニハ縣社鎮國守國神社ヲ祭リ九華公園アリ三ノ丸ノ舊城濠内ハ帝室材野管理局御料材ノ貯藏場トナレリ

14、本多忠勝ノ墓

桑名町清水町淨土寺境内ニアリテ本多忠勝公ガ實ヲ易ヘシ所ナリ墓祠ノ左右古色蒼然タル各一碑アリ重臣中根忠實梶原忠殉死ノ英魂ヲ埋ム

八、本町所管區別

- 陸軍 第十六師團
- 海軍 吳 鎮守府
- 司法 安濃津地方裁判所 名古屋控訴院
- 逓信 名古屋逓信局
- 煙草 名古屋地方專賣局
- 土木 內務省名古屋土木出張所木曾川工場
- 林野 大阪營林局 龜山營林局
- 稅務 名古屋稅務監督局

九、土地

(I) 土地大別

官有地	民有有租地		民有免租地		計
	昭和七年度	昭和七年度	昭和七年度	昭和七年度	
一、四九五	三、二六五	四、一	四、一	四、一	四、三五五
地目	反別	賃賃價格	一反當賃賃價格	筆數	
田	一、六、五〇六	四、一七	二、九、五〇	三、八三	
畑	二、四、三三八	五、〇四	二、〇、三五	一、一六	
宅地	一三、五三七	三、三、六二	三、三、九七	六、八七	
山林	八、三〇三	九一	一、〇七	一四一	
原野	一、六二〇	七	一、八六	九	

雜地	八三三	六	七、六九	一九
合計	三六、一九七	三〇、〇一一	二八、〇四	三、二四五

(3) 田畑所有者別 昭和八年三月三十一日現在

地目	本町民所有地		他町民所有地		差引	
	本町民所有地	他町民所有地	他町民所有地	本町民所有地		
田	二六、六〇四	〇	〇	二六、六〇四	八四、八〇二	
反	四、八六	〇	〇	四、八六	二〇、四三	
貸貸價格	三、三三三	〇	〇	三、三三三	一八、二五九	
畑	四、四一	〇	〇	四、四一	二六、五九三	
貸貸價格	〇	〇	〇	〇	〇	
合計	三六、一〇一	〇	〇	三六、一〇一	三六、一〇一	
十町歩以上	五町歩以上	三町歩以上	一町歩以上	五反歩以上	五反歩未満	計
一	四	四	四	四	二、六八	二、六八

(4) 本町民(本町内)土地所有反別人員表

十、戸 口

(1) 本籍並現住人口及戸數 昭和七年末現在

年次	本籍人口	現住人口			現住戸數	現住人口 一戸ニ付	本籍人口ニ對スル 現住人口ノ歩合
		男	女	計			
昭和元年	二四、四三三 男 一三、三三三 女 一一、一〇〇	一〇、六七七	三、〇五九	三、七三五	四、九三	四、六三	一九%
昭和五年	二四、六六六 男 一三、三三三 女 一一、三三三	一〇、七〇六	三、三三三	三、〇〇六	五、〇三七	四、五九	一九%
昭和七年	二四、四三三 男 一三、三三三 女 一一、一〇〇	三、九六六	一四、一四一	二七、一三三	五、九〇五	四、五九五	一九%

(2) 一 本籍人口動態 昭和七年末現在

年次	出生	死亡	死産	婚姻	離婚	其他	
						轉入	轉出
昭和三年	七三	五六	二七	三三	二		
昭和四年	七〇	四七	二五	三〇	三		
昭和五年	七三	四七	三	三九	三		

昭和六年	六八	五三	六	二六	二六
昭和七年	七六	四一	三	三〇	亮九、三六
平均	七〇	四〇	二七	三〇	八、三六

(2)ノ二人口動態 昭和七年末現在

種別	昭和七年		種別	昭和七年	
	本籍人	非本籍人		本籍人	非本籍人
出生	七六	一八	家督指定	四	〇
私生子認知	二四	一	入籍一家創立 離婚復籍拒絶	二	三
養子縁組	六	〇	廢絶家	一七	三
同離縁	元	一	分家及廢絶家 再興	七	〇
婚姻	三〇〇	九	氏名變更	四	〇
離婚	元	一	戶籍訂正追完	六	〇

后見	二四	〇	管内轉籍	一五	〇
隱居	八	〇	轉入籍	二六	〇
失踪	〇	〇	轉除籍	四	〇
死亡	四一	四	入籍通知	五	〇
家督相續	一六	〇	計	二、〇七	三〇〇
全廢除	〇	〇			

(3) 現住職業別戸口 昭和七年末現在

業別	戸數	昭和七年末現在		業別	戸數	總戸數ニ對スル百分比
		總戸數ニ對スル百分比	總戸數ニ對スル百分比			
商業	一、七五	三、一三	家事使用人	三	〇、〇六〇	
工業	一、四三	三、〇八	其他有業者	二五	二、九九	
農業	一六	一、三	公務自由業	四九	一、七九	

交通業	一、四〇	八、七	無職業	六四二	一、二五					
水產業	六二	五五	計	五、九〇						
(4) 死亡者年齡別 昭和七年末現在										
種別	十歲以下	十歲以上二十歲以下	二十歲以上三十歲以下	三十歲以上四十歲以下	四十歲以上五十歲以下	五十歲以上六十歲以下	六十歲以上七十歲以下	七十歲以上八十歲以下	八十歲以上九十歲以上	計
男	二〇	六	六	一五	三	一七	三	一	二四	
女	八	六	九	一六	一	一七	三	一	二九	
(5) 死亡者職業別 全										
種別	鑛業	公務及自由業	交通業	農業	商業	工業	水產業	其他有業者	無職業	計
男	一	一四	九	六	四	元	四	五	一四	二四
女	一	八	四	七	五	三	四	八	一四	二五
(6) 死亡及死產數月別 全										

種別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
死亡	四	四	四	四	四	五	四	四	三	三	三	五	五三
死產	三	六	二	三	四	一	五	二	四	三	三	五	四一

(7) 現住人年齡別

昭和七年末現在

種別	十歲以下	十歲以上二十歲以下	二十歲以上三十歲以下	三十歲以上四十歲以下	四十歲以上五十歲以下	五十歲以上六十歲以下	六十歲以上七十歲以下	七十歲以上八十歲以下	八十歲以上九十歲以上	計
男	三、五	二、四	二、一	二、六	一、三	一、二	一、五	三	三	三、九
女	三、〇	三、二	二、五	一、六	一、三	一、三	七	四	一	一四、一

(8) 出生數月別

昭和七年末日現在

種別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
男	四	三	三	三	三	一	三	三	二	二	二	二	三〇
女	三	三	三	三	三	一	三	二	二	三	二	二	三九



區別人員	區別人員	區別人員	區別人員	區別人員
學務委員	水道委員	土木委員	建築委員	
二	九	二	二	

(三) (1) 文書收受並二發送件數 昭和七年度末調

區分	庶務	地理	會計	稅務	社會	社寺	學務	兵事	衛生	戶籍	寄留	勸業	水道	課	職業	計
收受	五、六三	六、六	五、四八七	四、九	四、一〇九	六、五	五、三、〇五三、一〇	七、四	三、〇	九、三	五、四〇〇					
發送	六、三三	四、四	一、四三、四三	四、五	四、九	六、八	三、元二、〇五二、三〇〇	八、五	四、二	四、三	四、三	四、三	四、三	四、三	四、三	四、三
計	一一、九六	一〇、八	一、四三、九一七	八、四	八、八	一二、一	八、五、四〇五、四〇〇	一二、二	七、〇	一三、六	一〇、八	八、六	八、六	八、六	八、六	八、六

(2) 諸証明、公簿書類閱覽件數 全

種別	件數	種別	件數
印鑑証明	一、三二	身元証明	三二

戶籍謄本抄本	五、七四	寄留謄本抄本	一、八
工場法ニ關スル証明	六	營業納稅証明	四七
船舶證明	三	土地家屋ニ關スル証明	一四
住所氏名ニ關スル証明	三〇	公簿書類閱覽	二五

(三) 警備 (1) 警察 昭和七年度調

年次	警部				派出所
	警部	警部補	巡查部長	巡查計	
昭和七年	一	二	五	四	八

(2) 犯罪 全

年次	強盜	窃盜	殺人	放火	詐欺及恐喝	其他刑法犯	刑法外諸法令違反	計
----	----	----	----	----	-------	-------	----------	---

昭和七年	1	翌	1	1	1	1	1	1	1
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(3) 火災

年次	出火原因不詳		全燒		半燒		一直消止	
	放	火	一	二	一	二	一	二
昭和七年	1	1	1	1	1	1	1	1

(4) 消防

組數	部數	動力		蒸氣		腕用		組頭		小頭	消防手		計	警鐘
		一	二	一	二	一	二	一	二		一	二		
1	10	5	1	8	1	22	220	243	8					

(五) 主ナル官公署事務所

名	稱	位置	名	稱	位置
桑名郡產業教化団体事務所	西桑名町	桑名町	四日市區裁判所	桑名出張所	桑名町

町内及附近

桑名郡農會	全	三重縣穀物検査所	桑名出張所	西桑名町
桑名工區事務所	全	帝室林野管理局	桑名貯木場	桑名町丸
桑名警察署	全	桑名町職業紹介所		桑名町京町
桑名郵便局	桑名町京町	内務省名古屋土木出張所	木曾川工場	西桑名町
桑名町役場	全	名古屋地方專賣局	桑名煙草販賣所	全
桑名稅務署	桑名町外堀	桑名中學校		西桑名町
蠶業取締所	桑名支所	桑名高等女學校		桑名町
三重縣桑名財務出張所	全			吉名丸町

第二章 財政

(申)

一、町費歳入調

昭和八年四月一日調



歲出豫算			
科目	金額	科目	金額
一、神社費	三	一〇、公園費	三六七
二、會議費	三〇	二、勸業費	五〇〇
三、役場費	四、〇七	三、統計費	六五
四、土木費	四、八五一	三、救助費	四、三六
五、教育費	一〇五、三七	四、社會事業費	二、五〇一
六、學事諸費	七〇	五、警備費	四、九六一
七、傳染病豫防費	一、二二	六、基本財産造成費	一、三二
八、傳染病院費	四、四三	七、財産費	九五九
九、衛生諸費	五、三三	八、諸稅	元
合計	八九	合計	一、五〇〇

歲出臨時部			
科目	金額	科目	金額
一、土木費	七、八二	八、準都市計畫調查費	三〇〇
二、土木費本年度支出額	一五、一〇	九、繰入金	五、〇〇〇
三、納稅獎勵費	五〇	一〇、表彰費	七〇
四、財産買入費	六、〇四	二、登記所建築費	五、〇〇〇
五、基本財産充用積戻費	三三、二八	三、小學校營繕費	一四、〇〇〇
六、補助費	一〇、六三	合計	六九、三〇〇
七、社會事業助成會	六	總計	二四、一七
合計	五五	合計	一九四、八七

昭和八年度水道費歳入歳出豫算

歳入		歳出	
科 目	金 額	科 目	金 額
一、使用料及手數料	三、五八〇	五、雜 收 入	五、四〇〇
二、給水工事費	一、七五〇	六、繰 越 金	三、五〇〇
三、補 助 金	一、〇〇〇	合 計	五、三〇〇
四、繰 入 金	五、〇〇〇		
歳出 經常 部		歳出 經常 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
一、事 務 費	一〇、五五〇	三、水質試驗費	二〇〇
二、維 持 費	七、二〇〇	四、給水工事費	一、六五〇

四〇

五、豫 備 費

科 目	金 額	科 目	金 額
一、基本財産積戻金	九、三〇〇	臨時 部 計	五、一八〇
二、公 債 費	二五、八〇〇	歳 出 總 計	五、三〇〇

四、税金負擔額調 昭和七年度分

税 種	縣 税	町 税	合 計	現 住 一 人 當 住	現 住 一 人 當 住
税 額	二四、九六、八四	三〇、一六、三三	五五、一三、一七	六、二	一、三

五、町税徴收高並最高最低及平均額 全

税 目	徴 收 高	納 稅 人 員	納 稅 者 中 最 高 納 稅 者	全 上 最 低 納 稅 者	納 稅 者 一 人 當 住 平 均 納 稅 額
地 租 附 加 稅	四、七五、七	三、五五	一四、〇	一、〇	一、四六

四一



種別		一、土地		昭和七年度	
種別	反別又ハ坪數	種別	反別又ハ坪數	種別	反別又ハ坪數
町役場敷地	八畝十二步六合二勺	火葬場敷地	一反三畝二十九步	町役場敷地	八畝十二步六合二勺
第一尋常高等小學校敷地	一町二反七畝十九步二合四勺	西桑名地内水道川地	四百十四坪	第一尋常高等小學校敷地	一町二反七畝十九步二合四勺
第二尋常高等小學校敷地	一町二反六畝二十七步	赤須賀地内記念碑敷地	二畝二十五步	第二尋常高等小學校敷地	一町二反六畝二十七步
第三尋常高等小學校敷地	六反五畝十九步五合	西桑名町地内田	四畝四步	第三尋常高等小學校敷地	六反五畝十九步五合
第四尋常高等小學校敷地	五反九畝十一步	第四尋常高等小學校改築敷地	二千六百五十一坪三合一勺	第四尋常高等小學校敷地	五反九畝十一步
第五尋常高等小學校敷地	五反四畝四步	三之丸地内御料地拂下地	三百三十一坪〇四	第五尋常高等小學校敷地	五反四畝四步
町役場出張所敷地	四畝十二步	新屋敷地内原野	六畝十步	町役場出張所敷地	四畝十二步
幼稚園敷地	七百二十三坪	柳原地内原野		幼稚園敷地	七百二十三坪
傳染病院敷地	七百三十一坪八合五勺	伊賀町地内原野	四畝十五步	傳染病院敷地	七百三十一坪八合五勺

種別		二、建物		昭和七年度	
種別	建坪	種別	建坪	種別	建坪
水道用地	二百三十四坪四合	元益生地内水道用地	四千百八十一坪七合	水道用地	二百三十四坪四合
元警察署敷地	一畝步	外堀柳原伊賀町地内埋立地	五反四畝十五步一一	元警察署敷地	一畝步
新屋敷地内田	二畝十五步	水道用地元聯隊區司令部敷地	三百六十坪七合六勺	新屋敷地内田	二畝十五步
内堀地内原野	一反六畝二步	西桑名町地内畑	一反二畝九步	内堀地内原野	一反六畝二步
柳原地内原野				柳原地内原野	
町役場建物	百三十坪七合六勺	町役場出張所建物	三十五坪	町役場建物	百三十坪七合六勺
第一尋常高等小學校建物	千四十二坪八勺	舊赤須賀村役場建物	十五坪三合	第一尋常高等小學校建物	千四十二坪八勺
第二尋常高等小學校建物	千九十二坪一合八勺	幼稚園建物	百八十二坪九合六勺	第二尋常高等小學校建物	千九十二坪一合八勺
第三尋常高等小學校建物	八百五十七坪〇八七五	傳染病院建物	二百十六坪九合八勺	第三尋常高等小學校建物	八百五十七坪〇八七五
第四尋常高等小學校建物	五百四十七坪一合	吉之丸地内物置	十二坪五合	第四尋常高等小學校建物	五百四十七坪一合

第五尋常高等小學校建物

四百六十三坪

消防唧筒置場建物

五坪

四六

三、基本財産

種別	有價証券				預金
	五分利公債	四分利公債	三重縣債	勸業債券	
町基本財産					五、二五〇
貝塚獎學金	110,000			1,000	七五〇
伊藤特別基本財産				16,500	三九〇
小學校基本財産					三六〇
衛生基金	1,000	1,000			二四〇
罹災救助資金	5,000	1,000	160	11,000	六五〇
社會事業基金	2,000				二六二

第四章 交通

一、道 路

昭和八年四月一日現在

府縣道	國道	道路種類	路線數	路線延長	道路延長	橋數	延長	備考	預金			貸付金	負債	桑名町基本財産充用額	
									青年會補助基金	消防組費用基金	桑名町基本財産				
六	一		五、三二一	二、三三〇米	二、二六六米	八	三	重用路線延長一、四五米	三、〇〇〇	1	1	1	1	1	金五千貳百七拾貳圓也
			三、八四												金貳拾參萬貳千參百圓也
															金拾八萬七千六百六拾參圓也

町村道 五七 齒、三兎 八七三六 三 四七 重用路線延長七〇四九米

二、著名ナル橋梁

路線名	橋梁名	位置	橋梁全長	有効幅員
國一號線道	住吉橋	住吉町	二七・四	四〇〇
全	七ッ屋橋	新御治町	七・六	四八五
全	泡洲橋	鍋傳馬町	七・〇	六四〇
津縣 岐阜線道	旭橋	今一色寺町	八・三	九二〇
縣桑名町線	京橋	今一色寺町	一六・二	四〇〇
全	未橋	西川原	二・八	四〇〇
全	三ツ矢橋	淺水川	三・六	八七〇
全	北濱橋	堤原	四・九	五七〇
津縣 岐阜線道	南大手橋	三之町	八・〇	五五〇
縣桑名町線	京橋	須賀	一〇・九	四〇〇
全	柳原橋	伊賀原	五・一	五九七
全	鍛冶橋	鍛冶町	一三・一	三・一五
全	新橋	北鍋屋町	七・三	三・二四
全	傳馬橋	傳馬町	一三・五	三・一五
全	掛川橋	掛川	三・五	三・三三
全	立坂橋	立坂	三・一	三・七六

路線名	橋梁名	位置	橋梁全長	有効幅員
全	蓮橋	寺町筋	四・一	四一五
町重線道	玉重橋	太馬町	三〇・六	三〇〇九
全	北大手橋	川口丸	一五・一	三六三
全	長吾橋	内堀	四・九	四三〇
町鎮國神社線	中橋	片丸	一〇・三	三〇四
全	扇橋	三之丸	三・八	三一五
全	九華橋	吉之丸	六・〇	四〇三
全	赤須賀橋	第一須賀	五・一	六七〇
全	鍛冶橋	鍛冶町	一三・一	三・一五
全	新橋	北鍋屋町	七・三	三・二四
全	傳馬橋	傳馬町	一三・五	三・一五
全	掛川橋	掛川	三・五	三・三三
全	立坂橋	立坂	三・一	三・七六

三、船 車

昭和八年四月一日現在

自働車	自働車	馬車	乘用車
荷積用	自働車	通	乘用車
七	六	八	三、三〇〇
人力車	荷車	西洋型船	日本型船
七	二	一〇	一
乘用車	荷積用	乘用車	荷積用
七	二	一〇	一
人力車	荷車	西洋型船	日本型船
七	二	一〇	一
乘用車	荷積用	乘用車	荷積用
七	二	一〇	一

四、鐵 道 全

鐵道名	本町地内停車場	本町地内線路延長	一ヶ年乗降人員	一ヶ年貨物取扱噸數	備考
關西本線		五〇〇	九〇〇、七六〇	三、五五五	四、五三三
伊勢電氣鐵道	一	五〇〇	二四〇、四〇〇	二九、六〇四	一八、四六六
北勢鐵道	一	一、五〇〇	三三二、二三三	二〇九、三〇五	七〇六
					八、五五六
					桑名驛ヲ含ム

五、郵便電話 昭和七年末日現在

郵便局	一等局	二等局	三等局	自働電話	切手賣捌所	郵便函
養老鐵道	一	一	一	一七、六〇五	一七、一四〇	二〇、一三三
桑名電軌	三	一、〇一四	六三、三七六	一七、九六六	一	桑名驛
郵便物	普通	書留及	集金郵便	計	平均	日
引受及配達	二、三〇、八七	三、八三三	九三六	二、三三三、七七八	六、四三七	
小包郵便	二、八〇、七五	五、三六六	四、三三六	二、八六九、七九九	七、八三三	
引受	三、三、五六一	四、八三六	一七、三七九	三、九三二	九〇	
配達	三、三、五六一	四、八三六	一七、三七九	三、九三二	九〇	
書留及	價格表	計	一日平均			
書留及	價格表	計	一日平均			
書留及	價格表	計	一日平均			
書留及	價格表	計	一日平均			

電報發着數	內地發信		內地着信		外國發信		外國着信	
	三三、〇六		三三、三五		一五二		一六七	
電話	單獨	共同線	連	接無	料	計	加入者數	
							支	八
〇		一四		八〇六				

### 第五章 產業

#### (一) 農業 昭和七年度

(1) 農業經營狀態			
種別	戶數	耕地	
		田	畑
自作兼小作	三	六	七
自作農	〇	七〇	一六
計	三	六六	二二
小作農	七	二四	八〇
計	三九	一五〇	二二六
一戸當り耕地			

(2) 米			
年次	作付反別	收穫高	反當り收穫高
昭和五年	一五四	四、一三	二、〇〇
昭和六年	一五二	二、八五六	一、八〇五
昭和七年	一五三	三、七二	三、九五
計	三九	一五〇	二二六
小作農	七	二四	二
計	三九	一五〇	二二六
(3) 麥			
年次	作付反別	收穫高	反當り收穫高
昭和五年度	四一	五七六	一、四二
昭和六年度	四七	七五	一、五二



品 種	(6) 綠肥用作物		田 收 穫 高	價 格
	作 付 畑	反 別 計		
紫雲英	一畝	一畝	七畝、八〇〇 <sub>#</sub>	一、三三 <sub>#</sub>
菜 種	三二	三九 <sub>#</sub>	三、四八五	一〇、二六
ツ、ゲ	三	二〇 <sub>#</sub>	三、六〇	三〇
大角豆	二	二〇 <sub>#</sub>	二、四〇	二〇
ラツキヨ	五	二〇 <sub>#</sub>	四、〇〇 <sub>#</sub>	二
馬鈴薯	一	四〇〇	三〇	五
甘 藷	五	三、〇〇〇 <sub>#</sub>	二七	九
小 豆	一	七 <sub>#</sub>	二〇	〇〇、〇〇
大 豆	七	三 <sub>#</sub>	九 <sub>#</sub>	一、二〇〇 <sub>#</sub>

青刈大豆	一	一	一〇〇 <sub>#</sub>	一	一〇〇 <sub>#</sub>	三 <sub>#</sub>
------	---	---	------------------	---	------------------	----------------

(7) 養 蠶

年 次	桑園反別	春 蠶		夏 蠶		秋 蠶	
		飼育戸數	採立枚數	採立枚數	採立枚數	採立枚數	採立枚數
昭和五年	二三	二七	一、八二 <sub>#</sub>	二七	一、九二	七〇八	一、三三〇
昭和六年	二八	二六	一、七五 <sub>#</sub>	二六	一、四〇〇	六六八	一、九四
昭和七年	二八	二七	一、八〇〇	二七	一、二五〇	四、五八	二、四七

(8) 家 禽 (イ) 雞

年 次	飼育戸數	成 禽		雛		産 卵	
		羽數	價格	羽數	價格	個數	價格
昭和五年	二二	一、八二 <sub>#</sub>	三、二五	二七	一、九二	七〇八	一、三三〇
昭和六年	二八	一、七五 <sub>#</sub>	三、三七	二六	一、四〇〇	六六八	一、九四
昭和七年	二八	一、八〇〇	三、三六	二七	一、二五〇	四、五八	二、四七

年次	飼育戸數		羽數	價格	羽數	價格	羽數	價格	個數	價格
	成	雌								
七昭和	一〇三	六	六、三九〇	二、八五三	一七	八五	三、五二八	三五二	七六、八〇〇	九四〇
六昭和	一七	六	六、六二二	五、八〇七	二四〇	二〇八	一、三二八	五七	九三、三〇〇	三、七六
五昭和	一	一	七	三	一	一	一	一	一一、八五〇	二二七
六昭和	一	一	七	三	二	三	一	一	五、五五〇	二二
七昭和	一	一	七	三	一	〇、四	一	一	八、七〇〇	一三〇

飼育戸數	頭數	(9) 家畜									
										牛	馬
三	六	八	一七	二	五	二	一〇	一	一	八	一

種別	數量	價格	種類	數量	價格	(10) 牛乳		一升平均價格
						搾乳場	外國種雜種計	
昭和八年一月調	八、一七四	三、七三三	三、買五	七、九四	三、六〇六	三、八五	一、〇〇〇	四〇

(11) 農産額表		八年三月調	
米	三、七三三	養蠶	三、六〇六
麥類	三、買五	養雞	三、八五
菜種	七、九四	其	三、六〇六
養蠶	三、買五	他	三、八五
養雞	七、九四	計	三、七三三
雞	三、買五		
其他	三、買五		
計	三、買五		

(1) 主要製産物		(二) 商工業	
アイロン	三、〇六	瓦斯器具	三、〇六
	一、五、四		三、〇六
	三、〇六		三、〇六

鐵物機械器具	二五、七五	タ オ ル	一	六五、〇〇〇
焚火用具鐵物	二四九、五〇	漁 網	四、四六	五〇、〇〇〇
乃 眞鍮銅 工鉛	二四、三〇	脫 脂 綿	二、五〇	九、〇〇〇
製 綿	三〇、三〇	染 物		二三、〇〇〇
製 綿	六、一五	綿 布		二七、〇〇〇
綿 糸	二、三三、三四	紙 函		一〇、七〇〇
コ ン ロ	四九、一九	形 紙		八〇、〇〇〇
酒 類	三、一八	藥 製 品		九六、〇〇〇
味 噌	一五、五五	乳 母 車	三、五〇	三、〇〇〇
醬 油、 溜	三、〇三	傘	三、九〇	一三、八七五
穀	五、〇〇	足 袋	一六、八〇	五、〇〇〇

六〇

麵 麩	一四、四五	皮 革 製 品		一三、二五〇
菓 子 類	一〇三、八五	桑 名 盆		四四、一五〇
漬 物	七、〇八	漆 器 家 具 細 工		九、一〇五
瓦	二、四九	裝 飾 品		九、一〇五
箆 筒 長 持	四、八〇	植 物 油		一三、八三五
竹 製 品	一、二八〇	珐 瑯 鐵 器		四八、六九〇
木 製 品	二、二八〇	萬 古 燒		四、五〇〇
	二、九〇	ベ ア リ ン グ		二、一五〇、〇〇〇

(2) 工場

全

工場名	位置	創立年	主要事業	原動力
株式會社エヌチーエ 又製作所 三河屋鑄物鐵工合資 會社	内堀	大正二十年 二月	ベアリング製造 鑄造鐵工業	一八 一七、五 八
	南魚町	明治廿七年 五月		

六一

市川製網所	吉之丸	明治四十年	漁網製造		
大塚酒造場	三之丸	慶應三年	酒類釀造	一	二
朝日商會製材工場	內堀	大正七年	製材及木工賃挽	一	七、五
合資會社協和鑄造所	外堀	大正十三年	鑄造業	一	五、
鈴木鐵工所	三之丸	明治十八年	諸機械製造	一	二、
諸岡製材所	北鍋屋町	大正十二年	製材業	一	一〇、
桑原酒類製造場	吉之丸	明治三十年	清酒釀造	三	四、五
齊藤鉢力細工所	江場	明治四十年	鉢力鐵板細工	一	一、
加藤輝三商會 脫脂綿工場	全	大正六年	脫脂綿製造		
東洋鑄物製作所	內堀	大正九年	鑄造業	二	五、
桑名瓦斯株式會社	三之丸	大正三年	石炭瓦斯製造	四	五、

山本商店鑄物部	傳馬町	大正二年	鑄鐵及玳瑁鐵器製造	一〇	五、
山本製網所	桑名	明治四十一年	漁網製造	九	一四、
三重玳瑁株式會社	江場	明治三十四年	玳瑁鐵器製造	四	八、
諸戶タオル合名會社	傳馬町	明治四十四年	タオル製織	一四	三、五
東洋紡績株式會社 桑名工場	三之丸	明治三十一年	綿糸製造	六九	一、七、二、五
北勢製材合資會社	船馬町	昭和五年	木材賃挽	三	六、
丸中製材所	三之丸	大正十三年	製材業	一	五、
伊藤清六酒造場	一色町	明治二十三年	酒類釀造	三	八、
富岡鐵工鑄造所	紺屋町	大正八年	鑄造業	四	二、五
森酒造工場	內堀	明治十年	酒類釀造	四	三、
桑名製材合資會社	全	大正八年	木材賃挽	二	九、五

名	稱	所在地	主タル業務	出資額又ハ 資本金		設立年月
				資本金	出資額	
(3) 會社						
合資會社(吉)	製綿所	矢田	明治三五年六月	製綿業	一	四〇
水谷昇	工場	江場	昭和二年七月	自轉車番號札製造	一	五
萬屋	酒造所	本願寺	明治三三年十二月	清酒醸造	一	三
近藤	製油所	矢田	明治二九年四月	植物油製造	一	三〇
諸戸形紙	製造所	大福	明治四三年八月	染物用形紙製造	一	三〇
(セ) タオル	工場	全	大正八年九月	タオル製織	一	三
早川	タオル工場	矢田	大正十二年八月	全	一	二
伊藤邦次郎	鑄造所	本願寺	大正二年一月	鑄造業	四	一〇
東谷桑切	鑄製造所	矢田	大正十三年七月	桑切鑄製造	一	二

佐藤信之助	醬油醸造場	船馬町	明治二十五年四月	醬油、味噌醸造	二	五
十一屋	酒造場	江場	大正五年五月	酒類醸造	一	三
水谷製材	合資會社	清水町	大正九年六月	製材業	三	五
福岡	鑄造所	江場	昭和六年一月	鑄造業	一	三
丹村	鑄造所	矢田	昭和五年四月	全	一	三
伊藤德明	鑄造所	大福	大正八年八月	全	一	三
岩永友三	郎	全	大正六年六月	全	二	三
大須賀	鑄造所	江場	大正十五年六月	全	一	三
伊藤増次郎	鑄造所	新繁田松	大正八年八月	全	一	三
中山	鑄造所	江場	大正二年二月	全	四	三
竹中	鑄造所	全	大正九年九月	全	二	五

諸戸タオル合名會社	太一九	タオル製造	九拾萬圓	明治四四年六月
合名會社松田材木店	外堀	材木販賣	六萬參千圓	大正八年一月
合名會社佐々部材木店	太一九	材木販賣	拾萬圓	大正九年一月
伊藤紀合名會社	船馬町	不動產及 有價證券ノ利用	百萬圓	大正十一年一月
合名會社絲利商店	三崎通	綿糸販賣	參萬圓	昭和二年二月
合資會社桑名醬油製造所	吉ノ丸	醬油釀造販賣	壹萬圓	明治四二年七月
合資會社いづみや藥店	鍋屋町	賣藥製造販賣	壹千圓	大正四年八月
桑名製材合資會社	内堀	製材	壹萬五千圓	大正八年四月
合資會社山田商店	寺町	ゴム靴販賣	貳千圓	大正十二年八月
合資會社古川佐一商店	川口町	酒類販賣	參萬圓	大正十三年一月
合資會社栗田商店	田町	諸油販賣	拾萬圓	大正十五年二月

水谷製材合資會社	清水町	製材	六千圓	大正十五年六月
三重瑠瑠株式會社	江場	瑠瑠鐵器製造	參拾五萬圓	明治四十年六月
桑名瓦斯株式會社	三ノ丸	石炭瓦斯製造販賣	貳拾萬圓	大正三年三月
北勢倉庫株式會社	相生町	倉庫業	拾萬圓	大正九年六月
桑名土地建物株式會社	一色町	土地建物賃貸	參拾萬圓	大正十一年四月
中央度量衡株式會社	傳馬町	度量衡器製作	參拾萬圓	大正十二年四月
桑名劇場株式會社	宮通	活動寫真	五萬圓	大正十二年八月
桑名電軌株式會社	桑名	軌道ニ依ル運輸	貳拾萬圓	大正十五年九月
株式會社旭ビルディング	相生町	店舗ノ賃貸	六萬圓	昭和二年二月
株式會社桑名水産青果市場	南魚町	海陸物産委託販賣	八萬圓	昭和七年十一月
松平殖産株式會社	相生町	土地家屋ノ利用	參萬圓	昭和二年五月

株式會社九華舍古物市場	新町	古物委託販賣	壹萬圓	昭和二年六月
田中殖産株式會社	本町	家屋賃貸	貳拾萬圓	大正十二年四月
合資會社 糠半商店	田町	酒類販賣	千參百圓	昭和三年五月
合資會社 梶間商店	職人町	織物販賣	壹千圓	昭和二年十二月
三河屋鑄物鐵工合資會社	南魚町	鑄造鐵工業	貳萬參千圓	昭和三年六月
合資會社 魚金商店	全	海産乾物販賣	五千圓	大正十二年三月
合資會社 協和鑄造所	外堀	鑄物製造	貳萬壹千圓	昭和三年七月
合資會社 貝新商店	今一色寺町	食料品和洋酒販賣	貳千圓	昭和四年八月
株式會社 日ノ出市場	鍛冶町	店舖賃貸	貳萬圓	昭和六年五月
株式會社 船津屋	船馬町	料理及旅館業	四萬圓	昭和五年八月
北勢製材合資會社	全	木材賃挽	五千貳百五拾圓	昭和五年五月

境殖産合名會社	相生町	土地利用	五萬圓	明治四四年二月
日本建材合資會社	紺屋町	建築材料販賣	壹萬圓	昭和六年九月
合資會社 (吉) 製綿所	矢田	綿製	參萬圓	大正七年十月
三重相互無盡株式會社	本願寺	無盡業	拾萬圓	大正七年二月
三重乘合自動車株式會社	大福	自動車運輸業	拾六萬圓	昭和三年十二月
合資會社 指竹商店	矢田	建具製造	參千圓	昭和五年四月
合資會社 丸桑繭系商會	矢田	蠶具販賣	貳千圓	昭和五年十二月
株式會社 名古屋銀行	京町	金融業	貳千六拾萬圓	明治十五年一月
株式會社 百五銀行	全		壹千萬圓	明治十一年十二月
株式會社 四日市銀行	全		壹千萬圓	明治二八年十二月
株式會社 大垣共立銀行	三崎通		四百五拾萬圓	明治二九年三月

株式會社三重縣農工銀行		本町全	壹千萬圓	明治三十一年三月
株式會社不動貯金銀行		宮通全	八百萬圓	明治三十三年九月
(4) 金 融				
昭和七年末日調				
銀	一年間 年末現在	預り金	貯蓄	貯蓄預金
		諸貸付	貯蓄預金	貯蓄預金
内 國		代 金	取 立	其 他
送金爲替		割引手形	荷付爲替手形	其 他
各地へ向ケタル分		各地ヨリ受ケタル分	各地ヨリ受ケタル分	各地ヨリ受ケタル分
八、〇九八、八七六、二五三、七三二、五九八、二五二、七七七、二八二、六四三、六四三、九一五、〇八六、九六三、五九六				
市街用	組合員數	口 數	出資金	預 金
			拂込未済	貯 金
			出資金	貸 付

地 組	一、四三三	六、九二〇	一、八、二〇〇	六、〇六六	三、九二〇	三、〇、五七四	三、九八、〇三三
郵便	簡易保險契約	郵便年金契約	受入件數	郵 便	貯	貯	貯
取 扱	件 數	金 額	件 數	金 額	金 額	金 額	金 額
	二五、七五三、〇七、九六九	四七	一〇、一七六	六九、五四一、五四、三四	三〇、八五二、八四八、一八八		

(5) 産 業 組 合		昭和七年末日調	
組 合 名	所在地	主要業務	出資金
保證責任益生信用 利用販賣組合	桑名町大字 江場	信用利用 販賣	四、一五〇
保證責任西諸戶家信 用購買販賣利用組合	太一九 六七九番地	信用購買 販賣利用	三、五〇〇
桑 名 金 庫	職人町	貯金貸付	二六、三〇三、二〇三
諸 戶 家 信 用	太一九	貯金貸付 及購買	二〇、三〇〇
保證責任桑名鑄物信 用販賣購買利用組合	田町 十二番屋敷	信用購買 販賣利用	一一、〇〇〇
			一一、〇〇〇
			一一、〇〇〇
			七五、三三三
			一、四三三
			大正三年 五月九日
			大正二年 四月廿四日
			大正十四年 五月廿五日
			大正三年 二月十日
			明治三十五年 五月廿三日

(6) 營 業 者 表 (法人營業ヲ除ク) 昭和八年六月一日現在



魚						種別	數量	價格	計	其他
ボ	カレヒ●ヒラメ	クロダヒ	タヒ	フカ(サメ)	イワシ					
ラ	メ	ヒ	ヒ	メ	シ				二四一	二一
三、三〇〇	九三〇	二、〇五〇	八〇〇	五〇	一、〇〇〇				二八五	二一
三、三六〇	二、七三四	三、二二〇	二、四〇〇	二八	二〇〇				二、〇五〇	四二

(1) 水産物

三水産

昭和八年三月末調

リ	製	珙	製	加	製	肥	製	製	製	木
ン	水	瑯	麵	工	綿	料	網	油	材	工
グ				用						
一	一	一	二	一	七	四	二	一	一	一五
三	三	三	一	一	七	八	四	一	一六	一五
六六	二八	一〇四	二	一三	一四	八	一四七	二	六九	一二六

學校數	敷地	普通	特別	其他	學級數	ノ他ノ物動産		水産製造物			魚介罐詰						
						計	其他	計	乾海苔	カマボコ・チクワ	蛤	白魚其他	計				
	(1) 小學校					七一〇	二七四	一、四九〇	三、四七四	九、三〇〇	一五、五九〇	一六、七一〇	七、四一〇	七、四一〇	二、七三九	一三、三九四	昭和八年四月一日現在

第六章 學事

其水	貝類				魚類					
	計	シ、ビ・シジミ其他	ハマグリ	カキ	計	白魚其他	ウナギ	コヒ	アユ	コノシロ
エビ	七八〇	三八三、八〇〇	二二一、五〇〇	二七、三〇〇	一、三二五	七五〇	一、二二五	一〇	一〇	一、二〇〇
		二六、七九三	一六、三二五	三、五七四	一六、八四六	一、五一〇	二、八三四	一〇	七〇	四八〇

		五		一四、五七七		九二		一七		二九		九一	
性別	就業者	修學中	計	不就學兒童	學齡兒童總數								
男	二五六	一、七七〇	二、〇二六	四	二、〇三〇								
女	二六四	一、六七五	一、九三九	七	一、九四六								
(2) 町立小學校兒童及卒業生 昭和八年四月一日現在													
性別	尋常	高等	計	尋常卒業	高等卒業								
男	一、七七六	二九六	二、〇七二	二八七	一二五								
女	一、六八三	二五四	一、九三七	二七二	一〇五								
(3) 町立小學校教員數													
年次	正教員	准教員	代用教員	計									
昭和元年	四二	二三	一	三	三	二	七四						

		五		四七		二八		一		一		四		三		八四	
全八年	五八	三八	一	一	一	三	二	一〇二									
全五年	四七	二八	一	一	一	四	三	八四									
(4) 幼稚園 昭和八年四月一日現在																	
園數	男		女		計												
二	一〇八		九二		二〇〇												
(5) 各種學校 昭和八年四月一日現在																	
學校種類	學校數	教員數	學級數	生徒數													
桑名實業女學校	一	九	六	四一													
桑名實業補習學校	一	五	一	五六													
縣立桑名中學校	一	二九	一三	五〇三													

縣立桑名高等女學校

一

二二

一三

五八一

八〇

(6) 青年訓練所

訓練所種類	主事及指導員	生徒數	入所步合	出席步合
桑名町青年訓練所	一〇	一三八	四八、一四	五六、三七
桑名町南青年訓練所	九	四八	八二、四六	五七、〇五

(7) 教育費調

年次	經費	兒童一人當	町歲出百分比
大正十年度	七三、九七三	二二、八一	二割三分
昭和元年度	八〇、一九三	二三、六六	三割五分
昭和八年度	九四、〇二八	二三、四〇	三割四分

第七章 兵 事

(1) 徵集人員

昭和八年三月末現在

年次	壯丁總數	現役		徵集延期	徵集免除	兵役免除	其 他
		徵集	補充人員				
昭和元年	二〇三	三三	六二	九四	二五	一	三 七年以上所在不明 二 八
昭和七年	二五六	三四	六九	一〇三	五八	一	九 〃 〃 八六

(2) 徵兵檢查成績

昭和八年五月末調

年次	合格			不合格			合計	身長 平均	体重 平均
	甲種	乙種	丙種	丁種	戊種	計			
昭和元年	五七	三八	五四	一四九	四九	三	二	五四	二〇三
昭和八年	四七	三一	七七	二五五	五二	六	五	五八	二一三

(3) 陸海軍人員表

昭和八年五月末調

種別	陸軍	海軍	種別	陸軍	海軍
----	----	----	----	----	----

八一

現役	九〇	三九	將校	六九	六
豫備役	三八八	二〇	准士官	七	一
後備役	二〇二	一二	下士	三九	五
補充兵	九七一	兵卒	卒	一、五三六	六〇
計	一、六五一	七一	計	一、六五一	七一
<b>第八章 社寺及教會</b>					
(1) 神社					
縣社	四	三	二	一	一〇
鄉社	三	二	一		
村社					
無格社					
計					
(2) 神社					
神社名	祭神	鎮座地	昭和八年度算	氏子數	社有財產
鎮國神社	松平定綱公	桑名町吉之丸	二、四七六	一、三三九	有價証券四、三五〇圓 現金三三圓土地四畝七步
桑名神社	天津彦根命	桑名町崎	二、九二	一、三三七	公債現金五萬圓
中臣神社	天久及斯比乃命	桑名町田	二、五二	六九	公債三、五五〇圓 土地四反四畝五步
立坂神社	大日靈貴命	桑名町場	八七	三九	公債三、八〇〇圓 田四畝十步
神館神社	天照皇大神	桑名町	一、二六	四〇〇	有價証券三、五三圓 土地一反一畝二七步
天武天皇社	天武天皇 皇后高市皇子	桑名町錦屋町	一、二六	四〇〇	有價証券二、三〇〇圓 現金二〇〇圓土地六七坪
赤須賀神明社	宇迦之御魂命	桑名町赤須賀	一、二六	七六	金三、一六圓 土地五七八坪
北桑名神社	建速須佐之男命	桑名町堤原	一、〇三〇	五〇〇	有價証券二、三〇〇圓 現金二〇〇圓土地六七坪
八重垣神社	須佐之男命	桑名町大福	三三七	七四	公債五四〇圓 現金五三〇圓
稻荷神社	桑名町新地				

真宗	淨土	天台	眞言	曹洞	臨濟	日蓮	計
(3) 寺院							
無格社	全	村社	全	全	全	全	縣社
稻荷神社	八重垣神社	北桑名神社	赤須賀神明社	天武天皇社	神館神社	立坂神社	桑名神社
	須佐之男命	建速須佐之男命	宇迦之御魂命	天武天皇 皇后高市皇子	天照皇大神	大日靈貴命	天津彦根命
桑名町新地	桑名町大福	桑名町堤原	桑名町赤須賀	桑名町錦屋町	桑名町場	桑名町田	桑名町崎
	三三七	一、〇三〇	一、二六	一、二六	八七	二、五二	二、九二
	七四	五〇〇	七六	四〇〇	三九	六九	一、三三七
	現金五三〇圓	有價証券二、三〇〇圓 現金二〇〇圓土地六七坪	金三、一六圓 土地五七八坪	有價証券三、五三圓 土地一反一畝二七步	公債三、八〇〇圓 田四畝十步	公債三、五五〇圓 土地四反四畝五步	公債現金五萬圓

性 別	腸チブス	バラチブス	赤痢 (被痢 ヲ含ム)	猩紅熱	其 他	計
男	一五	一	八	五	三	三三
女	二六	一	三	五	四	三九
計	四一	三	一一	一〇	七	七二

昭 和 七 年 十 二 月 末 日 調	一〇	二	二	二	二	二
計	二六	一〇	一一	四	一一	四六

會 堂	信 徒	布 教
二	六九	三
內 國 人	外 國 人	計
二	三	一
二	三	四

(4) 教 會	昭 和 七 年 度 調
黑住教	一
天理教	三
金光教	一
大成教	一
御嶽教	一
計	四

(5) 基 督	昭 和 七 年 度 調
會 堂	二
信 徒	六九
布 教	三
內 國 人	二
外 國 人	一
計	二

### 第九章 衛 生

#### (1) 傳染病患者

昭和七年十二月末日調

肺 結 核	其 他 傳 染 疾 病	全 身 疾 病	神 經 系 感 覺 疾 患	血 行 器 官 疾 患	呼 吸 器 官 疾 患	消 化 器 官 疾 患	泌 尿 生 殖 器 官 疾 患	如 娠 及 產	皮 膚 及 下 肢 患 疾	骨 及 運 動 器 官 疾 患	畸 形	乳 兒	老 年	外 國 死 亡	不 明 診 斷	計
九	五	二	三	一〇	四	四	一〇	一	二	一	一	三	五	四	一	二九
一八	四	一	二	七	五	四	一〇	一	一	一	一	四	九	二	一	二六
二七	九	二	六	七	九	二〇	一	一	二	二	一	七	四	六	一	四五

#### (2) 死亡者病類別

昭和七年十二月末日調

肺 結 核	其 他 傳 染 疾 病	全 身 疾 病	神 經 系 感 覺 疾 患	血 行 器 官 疾 患	呼 吸 器 官 疾 患	消 化 器 官 疾 患	泌 尿 生 殖 器 官 疾 患	如 娠 及 產	皮 膚 及 下 肢 患 疾	骨 及 運 動 器 官 疾 患	畸 形	乳 兒	老 年	外 國 死 亡	不 明 診 斷	計
九	五	二	三	一〇	四	四	一〇	一	二	一	一	三	五	四	一	二九
一八	四	一	二	七	五	四	一〇	一	一	一	一	四	九	二	一	二六
二七	九	二	六	七	九	二〇	一	一	二	二	一	七	四	六	一	四五

#### (3) 汚物掃除

昭和七年十二月末日調

掃除夫延人員	塵芥搬出量	兩 便 所	公 共 小 便 所	便 所	計
二六	二七	九	二	一	一〇
二六	二七	九	二	一	一〇

一、〇八〇、二四四、九七五<sup>Ⅱ</sup> 七 五 一

(4) 醫療機關及製藥賣藥 昭和七年十二月末日調

醫師	藥劑師	產婆	製藥業者	賣藥業者	賣藥請買者
四七	一四	二七	一〇	三四	一七一

(5) 埋火葬 昭和七年十二月末日調

埋葬	火葬	其他	計
	傳染病者		
七六	五九	三三三	三八二
			四五八

(6) 種痘 昭和七年十二月末日調

第一期接種者	善感 <sup>內</sup>	不善感	第二期接種者	善感 <sup>內</sup>	不善感	不參者
	不參者	不參者		不參者		
五七九	四四八	一四	五二〇	五二二	三	二六
私 一六	一四	一	私 四	私 一		

(7) ドラホーム検診 昭和七年十二月末日調

男女別	現住人員	検診人員	重症 <sup>見</sup>	輕症 <sup>見</sup>	患者
男	一〇、八九二	一七一	一	一	三
女	一二、〇六八	二七九	一	一	六
計	二二、九六〇	四五〇	一	一	九

(8) 水道 昭和七年度調

基 本 計 畵	給 水 區 域	桑名町一團	布設認可月日	昭和二年八月十日	給水開始年月	昭和四年九月十三日
			豫定給水人口	三〇、〇〇〇	豫定一人一日給水量	九九リットル
工 種	起 工	竣 工	工 費	備 考	諸戸家寄附ノ水道	
創 設	明治三十三年七月	明治三十七年六月	不 詳			

期工	第一回擴張	昭和二年十月	昭和四年九月	三七八、四九八
水源並源水種類	送水唧筒	濾過池面積	配水池面積	配水方法
員辨川伏流水	五〇馬力電動機直結 タービン唧筒二台	一、四〇五 <small>平方米</small>	一、七六〇 <small>平方米</small>	自然流下
給水區域內	給水	同上比較百分率	給水區域內 通路延長	水管延長 同上比較 百分率
總戶數	人口	戶數	人口	昭七年 二七、八四五 <small>米</small>
五、九〇五	一七、一三三	三、五九九	一六、九七三	
總檢數	總使用	給水使用料	共用給水	量水器
戶數	計量給水	專用給水	調定額	戶數
二、六四五	三、五九九	五、四四	一、四四五	六、四〇三、九三
戶數	調定額	調定額	戶數	調定額
三、五九九	五、四四	一、六二二	三〇、九三三、四	五、九

昭和八年四月一日現在

### 第十章 社會

#### (1) 保育育兒

名稱	種別	創立	位置	職員	院	兒	維持費
桑名愛兒園	保育	大正十三年 十二月一日	桑名町大字 外堀	四	男 三二	女 一八	二、四三九
桑名惠風園	育兒	明治三十七年 五月廿一日	全 新町	三	二〇	九	二、四二九
(2) 恤救							
昭七年十二月末日現在							
軍事	救護	町	費	計	額	額	額
八	四六一	四三	二、一九〇	五一	二、六五一		
(3) 無料治療券交付數							
昭七年十二月末日現在							
種別	濟生會治療券	恩賜救療券	簡易診療所 使用免除券	計			
男	五六	一一	八	七五			
女	三三	一〇	一〇	五三			
計	八九	二二	一八	一二八			

(4) 方面委員

區域數

一三一 委員數

一三

(5) 職業紹介取扱状況

昭和八年四月一日調

年度別	求人數		求職者數		紹介件數		就職數	
	男	女	男	女	男	女	男	女
開設 大正拾三年	一五九	一三三	二八五	七三	一四九	四四	五三	三三
十四年	一五九	一五三	二二三	一六	一四	一〇九	三	三
昭和十五年	一七三	四〇	二六四	三	八	九〇	三	三
二年	二六	三	一六	二八	九	一七	四	八
三年	二五	三	二〇	二四	二九	一七	六	一〇
四年	二六	六	三三	二九	二二	一五	五	一六
五年	三四	二八	四九	九	一六	二八	七	一八

イ 職業別調

(昭和七年度中)

區分	求人數		求職者數		紹介件數		就職數	
	男	女	男	女	男	女	男	女
六年	二九二	一六一	五三	九〇	二七	五	七	二五
七年	三六	一七	五三	二九	一六	一	一	一〇
累計	三二八	一八七	一〇六	一二九	四三	六	八	三五
工業及鑛業	三	五	三	六	一	一	一	一
土木建築	三	三	六	六	七	七	六	三
商業	三三	二五	四	七	九	二	六	三
農林業	四	四	四	四	四	四	三	二
水產業								
通信運輸	三	三	五	一	六	一	一	一

性別	本籍	性 別		計	男	女	別 性
		男	女				
	北海道	一		一			全上中途退學
	東京都	三	一	三	一	一	中等學校畢業
	大阪府	三	二	三	二	一	中等學校畢業
	長崎縣	二	二	二	二	五	中等學校畢業
	新潟縣	一		一		五	高等學校畢業
	三重縣	一	五	一	五	一三四	高等學校畢業
	愛知縣	一三九	一八四	一四	六	八	尋常小學校畢業
	靜岡縣	一三	一四	一三	九	三	尋常小學校畢業
	山梨縣	一	一	六	二	四	多解者
	滋賀縣	一		二	四	七	少解者
				一五		一五	文字解者
				四二五	一六六	二五九	計

二 求職者本籍調

(昭和七年度中)

性別	年 齡 別	性 別		計	男	女	戶 內 使 用 人
		男	女				
	十四才以上	一	二	三			五
	十五才以上	一五	九	二四			七
	十六才以上	四	三	七			三
	十八才以上	三	三	六			六
	二十才以上	三	三	六			四
	廿五才以上	二	二	四			一〇〇
	三十才以上	二	七	九			四
	四十才以上	三	二	五			八
	五十才以上	三	一	四			五
	合 計	二五九	一六六	四二五			三〇

八 求職者教育程度調

(昭和七年度中)

口 求職者年齡調

(昭和七年度中)



人員 一、〇八三 五八三 五九七 四八九 九六七 七三一 正會員 四七  
 贊助會員 一六五

(3) 新聞雜誌 昭和八年四月一日調

名稱	位置	刊行別	名稱	位置	刊行別
伊勢新報社	桑名町堤原	日刊	伊勢毎日新聞社	桑名町本町	旬刊
民衆時報社	大北町	全	昭和時論社	京町	全
桑陽新報社	北寺町	全	明治新聞社	小ノ山	全
伊勢民友新聞社	外堀	旬刊	桑員タイムス社	西桑名町 織町	全
伊勢評論社	相生町	全	新伊勢	外堀	全

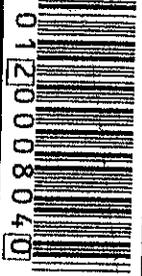
(4) 劇場

名稱	區別	位置
中橋座	演劇場	桑名町三ノ丸

三樂座	全	桑名町西鍋屋町
旭劇場	映畫常設	桑名町相生町
松竹館	全	桑名町本町



桑名市立図書館



01210008040

